

澁川一流柔術  
無雙神傳英信流抜刀兵法

# 貫汪館会報

第62号

発行 貫汪館  
森本邦生  
発行日 平成二十一年十二月二十三日  
広島県廿日市市宮内一四八〇

## 「広島護国神社奉納演武」

平成21年9月6日(日) 広島護国神社  
儀式殿において、貫汪館の恒例行事であ  
る奉納演武を行いました。

今回の演武には、貫汪館門弟28名を含  
む合計32名が演武しました。正式参拝の  
後、演武に先立ち貫汪館顧問である岡田  
先生から、「本日演武に参加される皆さん  
は、それぞれ貫汪館で柔術または居合を  
稽古されていることと思います。どちら  
も総じて武道といいますが、武道とは  
「道」と言う字が用いられています。「道」  
とは、すなわちどこまでも続くことで終  
わりがありません。つまり、死ぬまで稽  
古を続けなければならないということな  
のです。稽古を続ける上で大切なことは、  
ただただ技の上達を目的とするのではな  
く、頭をつかいた心を磨くことです。  
これを「文武両道」といいます。

貫汪館で稽古をされている門弟の皆さんは、森本先生のような立派な人間になるため、これからもさらに精進してください。」とお言葉を賜りました。また、森本先生から、「本日は、護国神社の神様に対して奉納演武をしますが、いつもの稽古どおりの演武を心掛けてください。立派な演武しようと考えてるかえって邪念を抱き、いつもの実力も発揮できなくなりません。日頃の稽古の成果を神様に見ていただいでください。」とお話した後、演武を開始しました。

今回の演武で感じたことは、特に子供達が緊張していたのか、普段の稽古どおりの演武ができていなかったように見受

けられました。また、道場で発するほど大きな声も出せていなかったことはとても残念でした。

稽古でも演武でも、常に大きな声を出せるよう心がけてください。

今回、広島護国神社での演武に参加された2名の方に、その感想を書いていただきましたので紹介します。

(文責 竹本 康祐)

## 広島護国神社奉納演武会に

### 参加して

私にとって当神社で奉納演武をさせて頂くのは初めてであり新しくきれいな社殿に、身の引き締まる思いが致しました。

今回の奉納演武会では、これまでと違い、3人の方の技の受及びプログラム進行のアナウンスの一部を担当させていただきました。

しかし、アナウンスについては、ただ進行表を読めば良いくらいにしか思っていなかったため、知らない技の読み方を直前になって慌てて先輩方に聞いてまわるといふ失態を演じ、加えて技名を言うタイミングが掴めず、演武始めの間を外し、演武される方々に御迷惑をかけてしまいました。

その結果、動揺した気持ちで自分の演武をむかえたため、浮き足立って力んだ挙句、ぎこちない動きの演武しかできませんでした。演武会を迎えるに先立ち、森本先生より「分からない事は兄弟子に良く聞き、思い込みで勝手

な行動はせぬように。」との御注意をいただいたににもかかわらず、事前の準備を怠り油断した心情が自分の演武にそのまま表れました。

先輩方が事もなくアナウンス出来たり、演武をされたりするのは、経験に裏打ちされた心がけや、圧倒的に豊富な稽古量が根底にあるからであり、いきなり安易に真似できるものではないという事を再認識致しました。

これから、この度の演武会での貴重な学びを活かし、決して慢心せず地道な稽古を続けて行こうと思いました。

(文責 濱村 多賀司)

今回の奉納演武では、写真を撮る為に、自分の番以外、舞台の外からカメラ越しに参加されたみなさんの演武を見させていただけました。

どの演武にもピンと張り詰めた、かといって気負った様子の無い心地よい緊張感に満ちていました。それはすなわち、日頃からの武道に対する姿勢や考え方であり、さらには貫汪館の姿がそこにあったのだと思います。

一方、私の演武はと申しますと、4本目の技に入る前に立つ方向を間違えてしまい、恥ずかしい場面を演じてしまいました。やはり、これも日頃の私の武道に対する姿勢(知らず知らずの間)にいい加減な形であらわれたのだと思いません。私にとって、感心と反省の奉納演武でした。

(文責 古館 蔵夫)



# 明治神宮奉納

## 古武道演武大会

平成21年11月3日(火曜日)東京・明治神宮において、毎年恒例の「古武道演武大会」(主催 日本古武道振興会)が行われました。今年の大会は、諸般の事情により、森本先生お一人で参加いただき、澁川一流柔術一流柔術及び無雙神傳英信流抜刀兵法それぞれの形の演武を奉納していただきました。

特に、澁川一流の演武では、お一人での演武につき、澁川一流居合の形を奉納いただきました。  
(文責 竹本 康祐)

### 澁川一流 (居合)



# 無雙神傳英信流抜刀兵法

## 居合講習会

平成21年7月26日(日)旧平良小学校に於いて「太刀打、詰合」の講習会が行われ、貫注館門弟の方々をはじめ、遠方からも多数参加されました。

講習会のはじめに、まず、斬撃、英信流表の復習を行った後、森本先生から「絶対に力を入れない」「形をつくらない」「右手を使わない」ことを守って稽古するようお話がありました。そして、それらの要求を守らず動いてしまえば全く使えない動きになり、逆に斬られてしまうことを具体的に指導されてから講習に入りました。

太刀打、詰合は2人で組んで木刀で打ち合うため、お互いに手先で合わせず、自分が出来ない部分で自覚しやすかったように思います。また、間合い、タイミングなど一人で行う時には理解しづらいことも、木刀で打ち合うことにより理解が深まりました。

今回お教えていただいたことは、今後の稽古に生かして行きたいと思えます。  
(文責 三崎 俊広)

平成21年11月15日(日曜日)廿日市市平良小学校において、居合講習会が行われました。

今回の講習会の内容は、澁川一流の居合でした。今回もまた、横浜、名古屋等遠方からも多数参加いただきました。澁川一流の居合の形は、あまり稽古をしませんので、参加された方の中には形の手順を追うことに必死になられていた方もおられたようでしたが、根本的な体の動きは柔術も居合も変ったものではありません。柔術、居合と切り離して考えることなく稽古することが大切だと思います。  
(文責 竹本 康祐)

